

演題 20. リアルタイム動画遠隔顕微鏡システム
を用いた画像判断の有用性

○菅野高史(株式会社サンリツ 千葉ラボラトリー)
堀田富康 吉田隆 (株式会社サンリツ)

【目的】血液像検査は症例によっては、結果報告の迅速性が必要となることがあるが、これまで、われわれの各ラボでは、難解な症例や異常細胞像出現時において、標本を搬送して熟練者による確認を行って報告してきた。このため、白血病などの症例において、詳細な内容についての報告がタイムリーに実施できないなどの問題があった。今回、われわれは、これらの問題を改善すべく新たなツールとして、顕微鏡画像を送受信するシステムを導入し、症例の早期解決に有用な効果が得られたので報告する。

【構成システム内容】

- ①テレビ会議システム：Warp Vision (NTT ヴィジオ社)
- ②リアルタイム動画遠隔顕微鏡システム：Warp Scope (フィンガルス社)
- ③FLET'S Group Access：光回線 (NTT 東日本)

【システムの特徴】

- ①映像の動画送受信が可能であり、電話と同様に画像を見ながらの会話が可能。
- ②高画質のため血液細胞の判断が可能。
- ③NTT の閉鎖回路網の使用により、セキュリティが高い。

【使用実績】(2007年2月～2007年8月)

本システムを用いたことによる迅速報告数：19例

【まとめ】迅速な血液細胞の判断が可能となったため、特に白血病などの血液疾患を疑う症例の異常値報告が各ラボから迅速に行う事が可能となった。また、熟練者との同一視野における細胞の確認や症例のディスカッションが可能となり、細胞の見方や症例の対処方法についての技能が向上され、異常データの発信数が増加した。